

感謝と熱意と向上心を不動産業の礎として 顧客に感動を与えるサービスを実践する

1971年の創業以来、不動産業を手掛ける『札幌宅商』。独自に「感動宣言!!」という経営理念を掲げる同社は、社員一人ひとりが不動産業に携わっていることに誇りを抱き、顧客に感動を与えるサービスを実践している。そんな社員たちを牽引する岡林社長は、熱意に溢れた人物。本日は、社長に不動産業に懸ける想いなど、様々なお話を伺った。

千堂 『札幌宅商』さんがご創業されたのは、いつですか。

岡林 1971年に現会長が創業しました。その当時、私はまだ地元・釧路管内の白糠町に住む学生でしたから当然、会社創業時のことは全く知りません。札幌に移り住んだのは、**小樽の学校を卒業した時です**。

就職活動時には華やかな広告業界を志望していたのですが、挫折してしましまして……。最終的に入社したのが、不動産会社の『札幌宅商』だったんです。私が23歳の時で、営業マンとして働きはじめました。千堂 となると、叩き上げて社長にまで登り詰められたわけですね。

岡林 それが、実は私は一度当社を辞めたことがあるんです。自らを高めるために他社で経験を積もうと、退社しました。そしてそちらで6年ほどお世話になった後、辞めることになり、その時に『札幌宅商』の現会長のもとへ相談にいったんです。実はその時、大手仲介会社さんからお誘いを

いただいたりまして。元々、独立志向が強かったこともあって、そちらでナンバーワンの営業マンになってから独立しようと考えていたんです。そうした話を会長に打ち明けてみると、その選択もいけれど、『札幌宅商』の社長職に就いて苦労したほうが自分のためになるのではないかと、というお話を下さったんです。

千堂 それで、『札幌宅商』さんに戻り、社長職に就かれたわけですね。会長がおっしゃった『苦労』とはどういうことですか。岡林 私が入社した時、社員は20名ほどいたのですが、そこから8名にまで減っており、業績も低迷していたんです。それを立て直すことで、経営者として成長することを会長は提案して下さいました。

千堂 今では随分、会社規模も大きくなっているようですが。

岡林 社員は40数名おり、札幌において不動産会社としては大きいほうに入ります。千堂 そこまで業績を伸ばしてこられたの

「岡林社長からお話を伺い、これほどまでに情熱的な不動産会社があるのだと驚かされました。もちろん利益を得るための事業でもありますが、お客様と相対する上では利害損得の範疇を超えた何か特別な思いがあるように感じました。まさに、心の通ったお付き合いをされているといった印象でしたね。これからも変わらぬ歩みを続け、お客様に感動を与える不動産業を継続していただきたいと思います。陰ながら応援しています！」

千堂あきほ (女優)



VIEW POINT

人が笑顔になれる不動産業

▼「私は人とかかわることが好きなのです」——。岡林社長のこの言葉に『札幌宅商』が不動産業と向き合う姿勢が表れている。今の時代、経済情勢の先行きが不透明で、どの業界にあっても同業他社との激しい競争は避けられない。効率的に収益を確保して業績を上げなければならず、さもなければ淘汰されてしまう時代だと言えよう。だが、同社の岡林社長は我が道をゆく。傍目には遠回りに映るかもしれないが、じっくりと時間を掛けて顧客と人間関係を築くところからスタートしているのだ。そして家族の間柄であるかのように、時には顧客に向かっ

て「お父さん」「お母さん」と親しみを込めて呼びかけて、他愛もない会話を織り交ぜながら、少しずつ距離を縮めているのだとか。

▼社長がそうしているのも、ただ単に成約できればそれでもいいとは考えていないから。極端に言えば、人が笑顔になれないような不動産業ならやっている意味さえないと思っている。不動産業とは、人が幸せになれる場所に引き合わせてあげる仕事。それを実践するために、社長は顧客の心に寄り添い、同じ目線に立ち、心豊かに過ごせる空間へといざなっていく。

は、何か要因が？

岡林 不動産業をサービス業だととらえて、相手に喜ばれる商売をしてきたからではないでしょうか。当社では「感動宣言!!」という経営理念を掲げています。」「感謝+熱意+向上心+躍進」という考えを基本に、お客様とともに感動できる仕事がしたいと考えているんです。

千堂 お客様との深くかわり合いながら、お仕事をされているのでですね。

岡林 ええ。お客様と同じ時間を過ごすにしても、感謝の気持ちを持って、最大限価値のある時間にしていこうと心がけています。お客様に喜んでいただくためにはどうすればいいかというも考えてきましたし、そうしていれば自ずとお客様はついてきてくれるものなのです。これまでに、泣いてしまうほどに感激・感謝して下さったお客様が何人もいます。そもそもそうしたお客様とのご縁があったからこそ、私はこの世界で生きていこうと心に決めましたし、これからも変わらぬ姿勢でお客様と向き合っていくつもりです。

千堂 社長の熱い思いが届いているからこそ、お客様の心が動かされるのでしょうか。

岡林 私の座右の銘は、「熱意で人は動く」。気持ちさえあれば、熱意さえあれば、人の心は動かすことができる、というのが私が不動産業をする上での持論なんです。最近世の中に閉塞感が漂っていますから、お客様の心が動きにくくなっていますが、そ



れでも私どもが熱い気持ちでお客様に働きかけていくことで、お客様の心も前に向けばと思っています。

千堂 そうした高い志を是非とも後進の方々にも伝えていってほしいです。

岡林 引き続き、不動産業界で活躍できる人材を育てていくつもりです。お客様に快適な空間をご紹介し、幸せになるためのお手伝いができる人材を育成してい

きたいと思っています。また、社長職に就任した時に心に決めた私の使命は、受け継いだ会社を守ることに。そして、それはつまり私にとって後継者を育てることだと考えています。経営者を育てるのでから決して容易なことではありませんが、少しでも早い段階で為し得たいですね。社員はもちろん、対外的にも安心できる人材に引き継いでいければと思います。

千堂 第二の岡林社長が出てくるといいですね。最後に、今後に向けての抱負をお願いします。

岡林 社員たちと一丸となつて、これからもお客様に喜ばれ、感動してもらえぬ不動産業を続けていきたいと思えます。そして、「札幌宅商」にしか頼まない」と言っていただけのような篤い信頼が寄せられる不動産会社にしていきたいです。



代表取締役社長

岡林 敏一

北海道釧路管内白糠町出身。小樽の学校を卒業後、札幌へと移り住み『札幌宅商』に就職。不動産業でのキャリアを着実に重ねた後、さらなるスキルアップを図ろうと、他社へ転職する。数年経って『札幌宅商』へ戻り、7年後社長職に就任。現在、独自の経営ビジョンを掲げて、同社をさらなる高みへと導いている。

ロゴが入ります

札幌宅商 株式会社

【本部】

北海道札幌市豊平区平岸 2 条 6 丁目 1-18

平岸グランドビル別館 2F

TEL 011-822-1700

FAX 011-822-0126

【本社】

北海道札幌市豊平区平岸 2 条 13 丁目

チサンマンション 2F・3F

TEL 011-822-0115

FAX 011-822-0126

